

令和3年4月1日

ラジエントヒーターで危うく火災となった事例

1 出火日時

10月〇〇日 午前9時〇〇分

2 非火災概要

福祉施設の介護職員Aは、お湯を沸かすためIHクッキングヒーター（以下「IHヒーター」という。）の左側ヒーターにやかんを掛け、タイマースイッチを入れると、その場を一旦離れた。しばらくすると異臭が発生、Aが調理室に戻ると、室内に白煙が立ち込め、自動火災報知設備も鳴動を始めた。Aが、IHヒーターを見ると、中央ヒーター（ラジエントヒーター）に置かれた樹脂製トレイから白煙が上がっているのを発見。Aはヒーターの電源を切り、樹脂製トレイを素手で移動した。

3 原因概要

Aが誤って、やかんがかかっている左側IHヒーターではなく、中央ラジエントヒーターのスイッチを入れてしまい、中央ラジエントヒーター上に置かれた樹脂製トレイが熱で粉上に砕け、樹脂製トレイ上にあった椀が溶融したものの。

4 教訓

IHヒーターは、磁力を利用して加熱するため、金属系の鍋でなければ熱くなりません。一方、機種によって搭載されるラジエントヒーターは、様々な鍋に対応するよう、ニクロム線を使用しヒーター自体が発熱する仕組みになっています。このため、ラジエントヒーター上に可燃物を置いた状態でスイッチをいければ、いずれ発火し、火災に繋がるおそれがあります。ガスコンロと違い火が直接見えないことから、作動状況が直感的にわかりにくい傾向があるため、使用時は十分な注意が必要です。

また、IHコンロは上面が平坦なことから、調理用品等を一時的に置くのにちょうどいいと感じるかもしれませんが、しかし、高い熱を発生させる機器であることに変わりはなく、ちょっとした勘違いから火災になる可能性もありますので、機器周辺に可燃物は置かないようにしましょう。



▲使用状況の再現



▲溶融した樹脂製トレイ



▲溶融した椀



担当：予防課
連絡先：0226-22-6693